

■ 注力事業紹介 デジタルカメラ

BUSINESS INTRODUCTION

世界中へ急速に普及が進むデジタルカメラ。デジタルカメラ市場を創造した
当社は、画像による新たな楽しみと豊かさを求めて、あくなき開発を続けています。

■ 当社のデジタルカメラのあゆみ

当社は1995年に、個人向けとして世界で初めて液晶ディスプレイつきデジタルカメラ「QV-10」を発売。撮ってすぐ見る新しいカメラの使い方を提案し、デジタルカメラが世界に普及するきっかけを作りました。2002年には超薄型カードサイズデジタルカメラ「EXILIM」を発売し、時と場所を問わず持ち運ぶ「ウェアラブルカメラ」を実現。2003年には光学3倍ズームと大画面液晶モニターを搭載した「EX-Z3」が、国内市場のデジタルカメラでNo.1のヒット商品になるなど、今日のデジタルカメラの主流を築きました。



QV-10



EXILIM (EX-S1)



EX-Z600

■ 業界をリードする性能と使いやすさ

より楽しく使いやすいカメラを目指し、当社はクイックレスポンス、液晶画面の大型化、長電池寿命化など、常に新しい技術とアイデアを投入し、業界をリードし続けています。2006年1月に発売された「EX-Z600」では、従来比3倍※に相当する1,200cd/m²の明るさを持つ自社製高輝度液晶を搭載し、野外でもはっきりと見える表示を実現しました。

また、手ブレ・被写体ブレの軽減はもちろん、斜めに写した名刺やホワイトボードを元の形に補正する「ビジネスショット」や、色あせた古い写真をあざやかに撮る「よみがえりショット」など、デジタルならではの新機能を搭載しています。フラッシュの発光制御技術と高感度化技術によって、1秒間に3枚連続のフラッシュ撮影もできるようになりました。

※当社EX-Z500比

■ 開発の効率化

モデルチェンジの激しいデジタルカメラ市場で、より速く新製品を開発するため、当社は開発効率のアップに努めています。画像処理のコアとなる「EXILIMエンジン」を開発し、共通プラットフォームとして各機種へ応用することで、開発のスピードを高めるとともにコストも低減。部品の共有化や部材調達統合なども進め、事業の利益率を高めています。

開発者の談話

■ 開発のポイントは？

太陽光の下でも見やすい、明るい液晶表示は以前からの課題でした。電池寿命を延ばすために省電力化と電池の大容量化を進めてきた結果、バックライトを十分に明るくするだけの電力を供給できるようになりました。そこでEX-Z600では光の強さを上げながら消費電力の増加を最低限に抑え、小型軽量の形状を損なわないように独自に設計したバックライトを搭載しています。

■ 今後の方向性は？

デジタルカメラで目指してきたことは二つあります。リリースタイムラグや電池寿命など、銀塩カメラに劣る点の克服。そして「よみがえりショット」など、デジタルにしかできない用途の提案です。常に従来になかった新しいアイデアを盛り込むことにこだわって開発しています。2006年5月に発売した「EX-Z1000」は、デジタル一眼レフカメラに迫る有効画素数1,010万画素。受光面積が大きい1/1.8型CCDと2.8型高輝度ワイド液晶を備えて、より美しい高精細な画像を楽しむことが可能になりました。



開発本部 QV統轄部 伊和 敦



EX-Z1000